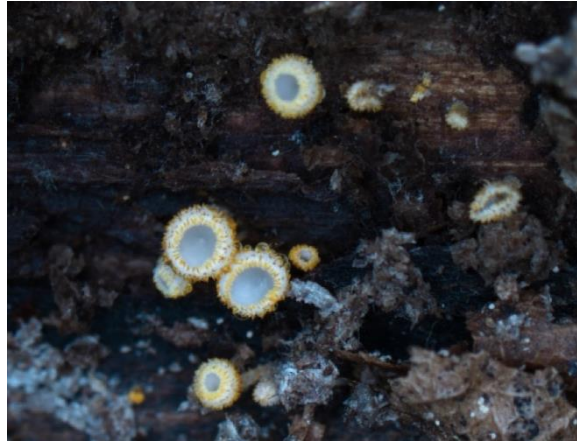


# 別寒辺牛湿原の植物遺体上に生じる ビョウタケ目(もく)菌類相の調査



▲植物遺体上に発生したビョウタケ目菌類の一例

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻

柝原 行人

# 研究目的

## ビョウタケ目菌類とは？

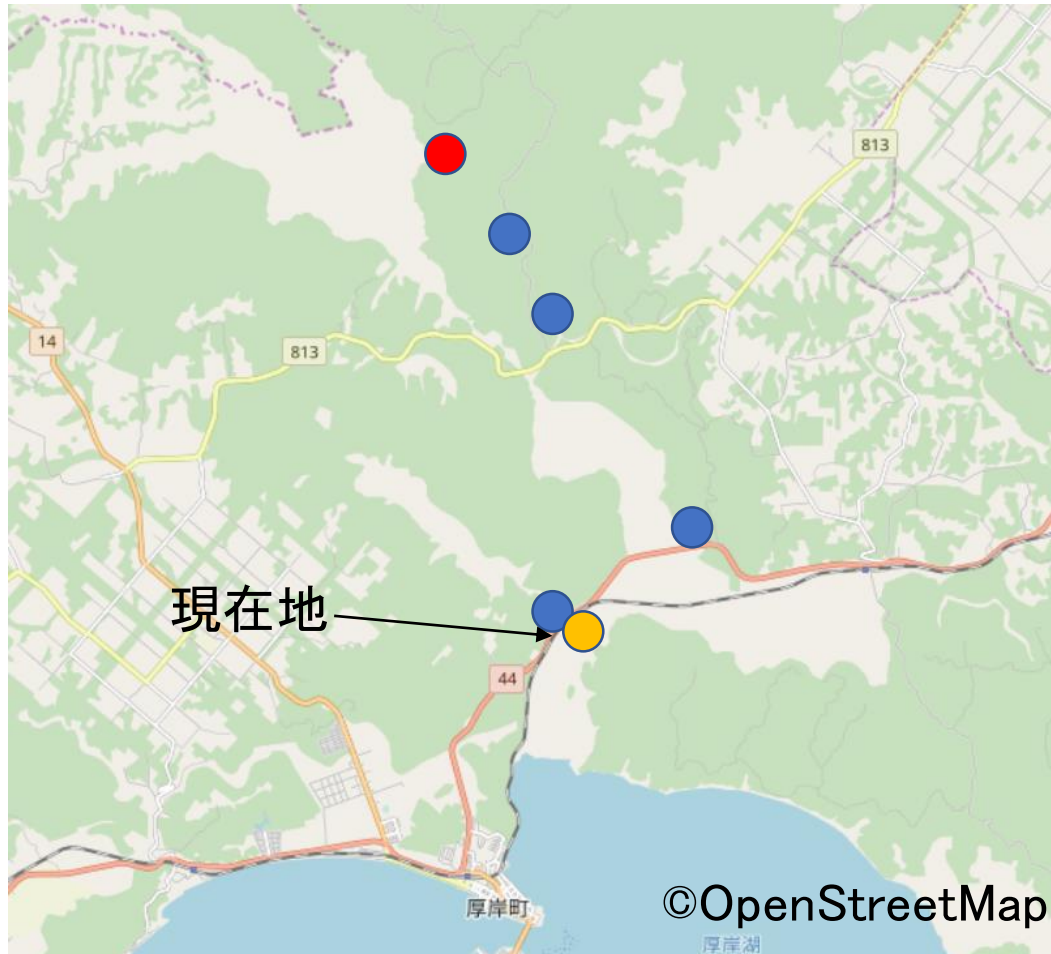
- ・子囊菌門に属する菌類で、数千種が含まれる。
- ・微小な植物遺体（落葉、小枝、草本茎）上に、1ミリ内外で茶碗型ないし皿形の子囊盤（＝きのこ）を形成する。
- ・植物遺体を分解して養分を得ており（＝腐生）、微生物の分解活性が低下する寒冷地の湿原における重要な分解者。



湿原のビョウタケ目菌類相を調査することは、湿原の成立過程や現状評価、生物多様性保全の観点から重要。

# 研究内容

別寒辺牛湿原の多様な環境(塩湿地、低層・中間湿原、高層湿原)を踏査し、ビョウタケ目菌類を採集・記録した。



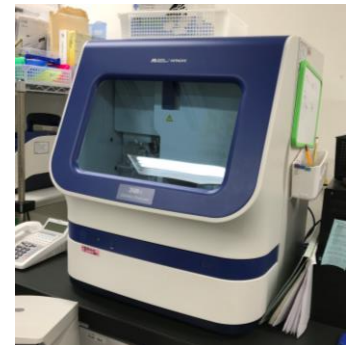
● 高層湿原 ● 中間～低層湿原 ● 塩湿地

▲ 採集を行った主な箇所

・ビョウタケ目菌は肉眼で探して基質ごと採集し、標本として国立科学博物館に収蔵。



・標本は形態観察により同定し、適宜DNA分析の結果も参考とした。



DNA解読を行うシーケンサー

# 結果

・計25種27点のビョウタケ目菌類を採集。環境ごとの菌の発生状況は以下の通り。

**塩湿地**：全く発生が見られず。

**中間～低層湿原**：優占種であるヨシの腐朽稈上に生じる菌が複数種。その他、湿原内の草本茎や、湿原周囲から飛ばされてきた落葉からも菌が発生。

**高層湿原**：ヤチヤナギ、ヤチツツジ、イソツツジなど環境を特徴づける植物に強い特異性をもつ菌が発生。

複数の未記載種や日本新産種が含まれた

# 今後の課題

さらに網羅的な調査による正確な菌相の把握と種同定の精度の向上が求められる。